

一般市民にもってもらいたい放射線リテラシーに関する専門家調査

Radiation Experts Survey on Scientific Literacy Related to Radiation that the General Public Wants to Acquire

*横山須美¹, 高橋克也², 森口由香³, 若城康伸⁴, 伊藤光代⁵, 成田亮介⁶,
竹西正典⁷, 竹西亜古⁸

¹藤田医科大学, ²農林水産政策研究所, ³かんげんこん, ⁴神戸大学大学院, ⁵豊川市民病院,
⁶日本原子力研究開発機構, ⁷京都光華女子大学, ⁸兵庫教育大学

放射線情報の提供者である専門家の知識基盤はさまざまである。このため、専門家間で「何が必要最低限の放射線リテラシーであるか」についてコンセンサスを図っておく必要がある。そこで、専門家が考える一般の人々にもってもらいたい必要不可欠な放射線の知識についてのアンケート調査を行った。

キーワード： 放射線, リスクコミュニケーション, リテラシー, 専門家, 一般市民, 健康影響

1. 緒言 専門家は、放射線やその影響を一般の人々に伝えようとしたとき、正確かつ、誤解のないようにと心がけるあまり、専門用語を多用して、詳細な説明を行おうとする傾向がある。しかし、一般の人々は、慣れない科学的情報を一度に提示されると、かえって混乱してしまい、中途半端な知識を持つてしまう可能性がある。このため、必要最低限度の情報に絞った情報提供を行うことが求められる。

2. 調査方法 専門家へのアンケート調査では、必要不可欠な放射線の知識と調査対象者自身に関する質問を行った。放射線の知識に関する質問は、関係行政機関等が発刊した一般向けの冊子等（小学生向け含む）15資料及び原子力・放射線関連の教員等が一般の人々に向けて講演した際に使用した13資料の中で使用されている71用語のうち、比較的頻度の高い用語（35用語）を選び、調査対象者に、これらの用語に対して、必要性の高さを5段階で評価してもらうこととした。調査対象者自身に関する質問は、「市民向けの講演や講座で話をすることがあるか」、「家族や友人にプライベートで話をすることがあるか」等とした。調査対象者は、原子力・放射線に関する教育を受けた、または、業務として放射線に関する知識を身に着けた者とした。

3. 結論 アンケートの作成のために使用した専門家の資料で使用されている用語には以下の特徴があった。「単位」、「放射線と放射能」等のように、現れる頻度が比較的高い用語（表1）は、行政機関の冊子と教員等の講演資料との出現頻度に大きな差はなかった。一方、放射線利用の中でも「原子力発電」については、教員等の講演資料ではほとんど使用されておらず、行政機関の冊子との違いがみられた。

表1 資料より抽出した放射線関連用語の一例（放射線の特徴）

No.	用語	出現頻度
1	単位 (Bq・Sv・Gy)	17
2	線と能	17
3	α ・ β ・ γ ・X・中性子	15
4	透過性(力)	15
5	半減期(減衰)	11
6	粒子(性)	11
7	光線(波)	11
8	壊変	6
9	放射性物質	5
10	原子核	5
11	エネルギー	5
12	電離	5

本研究は、環境省委託事業「平成31年度放射線健康管理・健康不安対策事業（放射線の健康影響に係る研究調査事業）」において実施したものである。

* Sumi Yokoyama¹, Katsuya Takahashi², Yuka Moriguchi³, Yasunobu Wakashiro⁴, Mitsuyo Ito⁵, Ryosuke Narita⁶, Masanori Takenishi⁷, and Ako Takenishi⁸

¹Fujita Health Univ., ²PRIMAFF, ³Kangenkon, ⁴Kobe Univ. (Ph.D. student), ⁵Toyokawa City Hospital, ⁶JAEA, ⁷Kyoto Koka Women's Univ., ⁸Hyogo Univ. of Teacher and Education.